



まちづくり活動支援

中川運河助成ARToC10 平成29年度 アートプログラム実施報告



中川運河助成ARToC10は、中川運河を舞台とする市民交流や創造活動につながるアートへの助成を平成25年度から実施しています。この助成事業は中川運河再生計画の趣旨に賛同されたリンナイ株式会社からの寄付を活用しています。
ここでは、平成29年度に実施された事業を紹介します。

月灯りの移動劇場

インスタレーション作品展示「月灯りの秘密基地」と野外劇場「アイオーラおばさまの家」

〈事業の概要〉

中川運河沿いの歴史建造物から建築をデザインコンセプトとした、インスタレーション作品「月灯りの秘密基地」の展示を中川運河近郊のアンティークショップで行いました。

また、メイン事業として中川運河周辺と愛知県内の町工場や職人と共に、古材をアップサイクルすることで制作した「巨大な家」を中心に展開される物語「アイオーラおばさまの家」を工場が立ち並ぶ運河沿いの野外劇場で上演しました。

〈主な事業内容〉

- ・インスタレーション作品展示「月灯りの秘密基地」平成29年7月2日～9日
- ・月灯りの野外劇場「アイオーラおばさまの家」平成29年10月13日～15日
(会場)リンナイ旧部品センター駐車場



野外劇場「アイオーラおばさまの家」

N-mark(エヌ・マーク)

Limicoline Art project(リミコライン・アートプロジェクト)

〈事業の概要〉

中川運河沿いに拠点を構え、市民と共にアート作品の制作を行ったり、運河の泥染め体験や運河トークなど多彩なワークショップを開催したり、まちで芸術を感じてもらおうとまち歩きとコラボして運河沿いで作品を展示するなど、幅広いアートプロジェクトを行いました。

10月に開催された「中川運河堀止芸術村」では、台風と重なってしまいましたが、ささまライブ24地区の高架下と水面のある堀止にて、アート作品の展示や、パフォーマンスが行われ、大学生が制作したアート屋台も出展されました。

〈主な事業内容〉

- ・中川運河てくてく散歩
- ・中川運河で屋台を作ろうWS
- ・泥染め対決WS/運河トークなど
- ・中川運河堀止芸術村



中川運河堀止芸術村



中川運河てくてく散歩

シネマスコール

Filmusic in 中川運河(フィルムミュージックイン中川運河)・秋

〈事業の概要〉

市民から他県の人々にまで「中川運河」を知ってもらい、「秋」の中川運河の魅力を再発見・認識してもらう事を目的に、中川運河沿いの「秋」の魅力を盛り込んだ3本の短編映画を制作しました。出演者は、エキストラはもちろんですが、演じる俳優にも積極的に名古屋市民に参加していただき、映画監督の2作品と、監督はじめスタッフが映画製作講座受講生のメンバーで制作された市民参加型の1作品が完成しました。

完成した映画は、2月に完成披露上映会を行い、映画の参加者はじめ、地域の方など多くの人に観ていただきました。関連事業として、名古屋駅西の映画館で4月に特別上映されます。中川運河を舞台にした短編映画3作品をぜひご覧ください。

〈完成作品〉

- ・監督 白石 和彌「マンドリンの女」
- ・監督 松本 卓也「ダイナマイト・ソウル・パンピ」
- ・監督 北岡 真紀子「中川運河サンダーボルト」

上映:シネマスコール(<http://www.cinemaskhole.co.jp/cinema/html/> TEL:052-452-6036)



上映会チラシ

中川運河助成ARToC10 平成30年度 助成事業の決定

平成30年度は、中川運河の再生と魅力向上にアートでチャレンジする「トライアル部門」を新設しました。
2部門となったことで事業数も増え、アート作品や映像による風景づくりや、舞台公演、ダンス、ワークショップなどのアートプロジェクトを実施し、中川運河の魅力を全国に向けて発信します。

部門	助成対象者	事業名	事業内容
プロジェクト部門	シネドキズム実行委員会	音楽・写真・映像・ダンスによる現代舞台芸術作品「シネドキズムⅡ」～人と神社と運河を繋ぐ～	歴史ある運河沿いの神社で、音楽と写真と映像とダンスからなる舞台芸術作品を新能のような演出によって上演。地域と運河への意識を喚起し、魅力の再発見につなげる。 上演イメージ「伝統と現代が交差する場所」▶ 
	伏木 啓	映像インスタレーション "waltz"	運河に浮かべたスクリーンに映像を投影し、水面や周辺景観と響きあわせた映像インスタレーションで、運河の視覚的価値を再認識してもらう。 「waltz 2018」イメージプラン▶ 
トライアル部門	Coming O-bird	中川運河～人と水・花・音楽のハーモニー♪～	いけばなアートの公開制作とクラシック音楽の演奏によって、中川運河の水辺とささしまエリアの都市的な借景ができる会場の新たな魅力を発信する。 
	汲田 楓	風景の倒置法 Inverted landscape	運河用地に鏡を用いて異なる風景が重なる作品を設置する。 風景を強調させるような作品の効果により、運河がもつ歴史や人、物資の重層性を意識してもらう。 
	トレブンテ	アートあそびプロジェクトみずかがみのびじゅつ展 at 中川運河(仮)	運河を散歩して魅力的な「かたち」を見つけるワークショップをし、発見した「かたち」をベースにして思い思いの色を描き、集まった色彩豊かな「かたち」の作品を運河上と運河沿いに展示し、水面に色とりどりの水鏡を出現させることで、新しい風景を作り出す。 作品の展示イメージ▶ 
	ナゴコン	ダンスでつなぐ中川運河	地域の景観・思い出をリサーチし、地元の心情を可視化するダンス作品を制作し、季節ごとにその映像を配信することで撮影場所の魅力も発信する。 
	ばらばらうんが	中川運河の色による抽象化とグッズ「ばらばらうんが」	運河を運行する船内からみえる色の移ろいを抽象化して記録し、そこから、パラパラ漫画のようにめくって色を楽しむ「ばらばらうんが」を制作する。 抽象化のイメージ▶ 
LIBERGRAPH	中川運河の水面に咲く電子植物	災害時に活用できる水から発電する電池と、それによってLEDの花を咲かせる電子植物をワークショップで制作する。防災の日に松重閘門付近の水面に植栽祭を行い、中川運河の魅力発信と災害時の代替電源への関心を高める。 	